# リリースノート

openSUSE Leap はお使いの PC やラップトップ、サーバなどで動作する、Linux ベースの自由なオペレーティングシステムです。Web の閲覧や電子メール／写真の管理、オフィス作業やビデオ／音楽の再生などを行なうことができます。お楽しみください！

発行日: 2018-06-29, : 15.1.20180629

## 目次


1 インストール 2

2 システムアップグレード 6

3 パッケージの変更について 6

4 さらに詳しい情報とフィードバック 6

This is the initial version of the release notes for the forthcoming openSUSE Leap 15.1.

If you upgrade from an older version to this openSUSE Leap release, see previous release notes listed here: https://en.opensuse.org/openSUSE:Release_Notes.

これは openSUSE プロジェクトが公開する公開ベータテストです。プロジェクトに関する情報は、https://www.opensuse.org をご覧ください。

Report all bugs you encounter using this prerelease of openSUSE Leap 15.1 in the openSUSE Bugzilla. For more information, see https://en.opensuse.org/Submitting_Bug_Reports. If you would like to see anything added to the release notes, file a bug report against the component “Release Notes”.

# 1 インストール

本章には、インストールに関連する説明が書かれています。アップグレードに関する詳しい手順については、下記で公開されている文書をお読みください: https://doc.opensuse.org/documentation/leap/startup/html/book.opensuse.startup/part.basics.html

## 1.1 Using Atomic Updates With the System Role Transactional Server

The installer supports the system role Transactional Server. This system role features an update system that applies updates atomically (as a single operation) and makes them easy to revert should that become necessary. These features are based on the package management tools that all other SUSE and openSUSE distributions also rely on. This means that the vast majority of RPM packages that work with other system roles of openSUSE Leap 15.1 also work with the system role Transactional Server.

### 注記: 非互換のパッケージについて

RPM パッケージ内の `%post` スクリプト内で、`/var` や `/srv` の内容を書き換えるパッケージがそれに該当します。これらのパッケージは互換性のないパッケージですので、そのようなパッケージを見つけた場合には、バグ報告をお願いいたします。

これらの機能を提供するため、この更新システムは下記の仕組みを利用しています:

- **btrfs スナップショット:** システムの更新を開始する前に、ルートファイルシステムに対して新しい btrfs スナップショットを作成します。その後、必要な全ての更新内容をそのスナップショット内に保存します。更新を完了するには、システムを再起動して新しいスナップショットを利用するようにします。
  更新を元に戻すには、以前に採取したスナップショットから起動するだけです。
- **読み込み専用のルートファイルシステム:** 更新による問題やデータ損失を防ぐため、ルートファイルシステムには不用意な書き込みを発生させてはなりません。そのため、通常動作時には、ルートファイルシステムを読み込み専用にしてマウントします。
  このような仕組みを動作させるため、ファイルシステムに対して追加で 2 種類の変更が行なわれます: 利用者側での `/etc` への設定書き込みを許可するため、このディレクトリは OverlayFS を使用するように自動設定されます。また、`/var` はプロセス側で書き込みができるよう、個別のサブボリュームが設定されます。

## 重要: Transactional Server Needs At Least 12 GB of Disk Space

The system role Transactional Server needs a disk size of at least 12 GB to accommodate Btrfs snapshots.

トランザクション型更新を行なう場合、ソフトウエア管理にあたっては YaST や Zypper ではなく、必ず `transactional-update` コマンドをお使いください:

- システムの更新: `transactional-update up`
- パッケージのインストール: `transactional-update pkg in パッケージ名`
- パッケージの削除: `transactional-update pkg rm パッケージ名`
- 直近に採取したスナップショット (ルートファイルシステムに対して、更新を適用する前の状態) に戻すには、次回の再起動でそのスナップショットを利用するよう、下記のコマンドを実行します:
  `transactional-update rollback`
  必要であれば、コマンドの末尾にスナップショット ID を追加して、特定の時点の状態に戻すこともできます。

When using this system role, by default, the system will perform a daily update and reboot between 03:30 am and 05:00 am. Both of these actions are systemd-based and if necessary can be disabled using `systemctl`:

```
systemctl disable --now transactional-update.timer rebootmgr.service
```

トランザクション型更新について、詳しくは openSUSE Kubic プロジェクトのブログ投稿 https://kubic.opensuse.org/blog/2018-04-04-transactionalupdates/ および https://kubic.opensuse.org/blog/2018-04-20-transactionalupdates2/ (いずれも英語) をお読みください。

## 1.2 最小限のシステムインストールについて

最小限のシステムをインストールした場合、下記に示すとおり一般的に必要な機能がインストールされません:

- ソフトウエアファイアウオールのフロントエンドがインストールされません。必要であれば、`firewalld` パッケージをインストールしてお使いください。
- YaST がインストールされません。必要であれば、`patterns-yast-yast2_basis` パターンをインストールしてお使いください。

## 1.3 Installing on Hard Disks With Less Than 12 GB of Capacity

The installer will only propose a partitioning scheme if the available hard disk size is larger than 12 GB. If you want to set up, for example, very small virtual machines images, use the guided partitioner to tune partitioning parameters manually.

## 1.4 UEFI—Unified Extensible Firmware Interface

UEFI (Unified Extensible Firmware Interface) を利用して起動するシステムに openSUSE をインストールする場合、事前に製造元が推奨するファームウエア更新を必ずチェックし、可能であればインストールしておくことを強くお勧めします。Windows 8 もしくはそれ以降のバージョンがプレインストールされているマシンの場合、お使いのシステムが UEFI である可能性が高いものと思われます。

背景 UEFI のファームウエアによっては、UEFI のストレージ領域に多くのデータが書き込まれることで、起動に失敗してしまうバグを抱えています。もちろんこれはバグであるため、どれだけ「多くの」データを書き込むことで問題を発生させるのかは、誰にもわかりません。

openSUSE では、OS を起動するのに最低限必要となるデータ (UEFI に対して、openSUSE のブートローダの場所を示すための情報) しか書き込まないようにすることで、このバグの発生を最小化しています。Linux カーネルのオリジナル版では、UEFI のストレージ領域に起動やクラッシュに関す

る情報を書き込む機能 (`pstore`) がありますが、既定では無効化しています。ただし、バグである都合上、ハードウエアの製造元が推奨するファームウエア更新については、必ずインストールしておくことをお勧めします。

## 1.5 UEFI, GPT, MS-DOS の各パーティションについて

EFI/UEFI の仕様には、新しい形式のパーティションテーブル GPT (GUID パーティションテーブル) が定義されています。この新しい方式では、ユニークな GUID (識別子; 32 桁の 16 進数で表わされる 128 ビットの値) を利用してデバイスとパーティション種別を識別します。

これに加えて、UEFI の仕様では古い MBR (MS-DOS) 形式のパーティションテーブルにも対応しています。Linux のブートローダ (ELILO, GRUB 2) では、これらの古い形式のパーティションに対して、自動的に GUID を割り当ててファームウエア内に書き込もうとします。この場合、GUID は頻繁に変更されてしまうため、ファームウエアへの再書き込みも頻繁に発生することになります。この再書き込みには 2 つの操作、具体的には古い項目の削除と、それを置き換えるための新しい項目の作成が含まれます。

また、新しいファームウエアには、削除された項目を収集して古い項目用に確保したメモリを解放する、ガーベージコレクタ機能が用意されています。ファームウエアに不具合があると、これらの古い項目を収集できなかったり、メモリを解放しなかったりする場合があり、これにより起動が不可能になる場合があります。

このような問題が発生した場合は、古い MBR 形式のパーティションを GPT 形式のパーティションに更新して、問題を回避してください。

## 1.6 高 DPI ディスプレイのコンピュータにおけるインストーラ UI の表示について

既定では、YaST インストーラは高 DPI ディスプレイ環境において、正しい縮尺での表示が行なわれません。お使いのコンピュータが高 DPI ディスプレイの環境である場合は、起動時に設定を行なうことで、YaST に自動で縮尺を設定させることができます。具体的には、ブートローダのコマンドラインパラメータとして `QT_AUTO_SCREEN_SCALE_FACTOR=1` を追加してください。

# 2 システムアップグレード

本章には、アップグレードに関する説明が書かれています。詳しいアップグレード手順については、下記で公開されている文書をお読みください: https://doc.opensuse.org/documentation/leap/startup/html/book.opensuse.startup/cha.update.osuse.html

このほか、3項「パッケージの変更について」についてもご覧ください。

# 3 パッケージの変更について

## 3.1 廃止予定のパッケージについて

廃止予定のパッケージは、ディストリビューションの一部として現在も配布されているものの、次期バージョンの openSUSE Leap で削除される予定になっているものを示しています。これらのパッケージは移行を目的として残されていますが、使用は推奨されず、更新を受け取れない可能性があります。

インストール済みのパッケージがメンテナンスされているかどうかを確認するには、`lifecycle-data-openSUSE` パッケージをインストールした後、下記のコマンドを実行してください:

```
zypper lifecycle
```

# 4 さらに詳しい情報とフィードバック

- まずはメディア内の `README` 文書をお読みください。
- また、特定のパッケージに対する詳細な変更点を RPM パッケージから表示するには、下記のコマンドを実行します:

  ```
  rpm --changelog -qp FILENAME.rpm
  ```

  *ファイル名* の箇所を RPM の名前に置き換えてお使いください。
- また、メディアのルートディレクトリには `ChangeLog` ファイルがあります。ここには、更新されたパッケージに対する全ての変更点が時系列順に並んでいます。
- そのほか、メディアの `docu` ディレクトリには、さらに詳しい情報があります。

- 追加のドキュメンテーションや更新されたドキュメンテーションをお読みになりたい場合は、https://doc.opensuse.org/ をご覧ください。
- また、openSUSE からの最新の製品ニュースについては、https://www.opensuse.org をご覧ください。

Copyright © SUSE LLC